

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホームすてきだね ほほえみ館		
所在地	旭川市東光15条5丁目2番12号		
自己評価作成日	令和 2年 8月 31日	評価結果市町村受理日	令和 2年 10月 1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_ka ni=true&JigyosyoCd=0172901225-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 2年 9月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者さんの状況に合わせて柔軟な支援を行っている。
- ・入居者さんのペースに合わせて生活を送れるようにケアを行っている。
- ・可能な限り椅子に座る、トイレでの排泄を促す、自力で摂取できる等工夫をして取り組んでいる。
- ・地域の方々や家族の方々との交流がある。(今年は新型コロナの影響でなし)
(イベント:ほほえみ祭り、花火大会、敬老会、クリスマス会等)
- ・母体の山下整形の理学療法士の専門的アドバイスを受けられる。
- ・スタッフが協力をし休みをとれるようしている。
- ・毎月すてきだね通信と個人通信を発行している。
- ・資格取得にかかる費用の助成をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関を母体とした「グループホームすてきだね」は、バス停から至近距離にあり、協力医療機関やコンビニも近く利便性に優れています。2週間毎の外來受診を外出の機会と捉えています。コロナ禍のこともありますが、高齢化に伴い外出希望が殆どなく、外出を希望する家族の思いの中で、職員は解決に向け模索をしています。町内会とも良好な関係にあり、行事等は回覧板で周知し、新年会には認知症サポーター養成講座の講師として、施設長が招請されています。毎月発行のすてきだね通信と個人通信で利用者の日常を写真とコメントを添えて家族に届け、安心感を得ています。職員はの利用者からのサインを見逃さないように五感を働かせ、利用者が不安な気持ちになったときは落ち着くまで傍にいて話を聞くなど、常に寄り添った支援に取り組んでいます。職員は、利用者から都度労りの言葉を掛けられており、家族的な繋がりがある事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を玄関に掲示している。パンフレットやホームページにも掲載している。	「素敵だね 笑顔が良いね この家で それぞれの そしてみんなの 今が生きてる」を理念としています。職員は、理念の重要性を理解し、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入している。町内会長には運営推進会議に参加の協力を得て、イベントにもご理解を得ている。近くのコンビニに入居者さんと一緒に買い物で利用させていただいている。	年3回、町内会の廃品回収に協力し、新年会に認知症サポーター養成講座の講師として施設長が招請されています。コロナ禍以前は、「ほほえみ祭」で地域住民やフラダンス等のボランティアの方々と交流がありました。地域貢献の一環として、玄関前に次亜塩素酸水のタンクを設置し来訪者が自由に持ち帰れるようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、行っている。管理者が認知症サポーターキャラバンメイトとして活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行い継続して取り組んでいる。少しずつ地域の方の意見も出るようになってはいるが、まだまだ課題は多い。	運営推進会議は定期的開催し、利用者や家族に加え、民生委員でもある町内会長や2名の地域包括支援センター職員、知見者をメンバーとしています。利用者や職員の状況、身体拘束や事故の有無等を報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターとは密に連絡を取り合い、協力関係は築けている。	実地指導では適切な助言があり、業務改善に生かしています。地域包括支援センター職員とは、各種会議や研修、相談等で関わりがあり、運営の質確保や職員の資質向上に繋げています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。夜間は防犯の為に施錠をしている。非常口は、施錠をしているが、すぐに開錠出来るように側にカギを置いている。身体拘束等の適正化のための指針を作り直し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化に向け指針を整備し、運営推進会議時に委員会を開催しています。職員は、研修や日々の業務で正しいケアのあり方を理解しています。役職者は言葉遣いなど適宜助言し、共通認識を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修として虐待について学ぶ機会を作っている。虐待についても十分理解し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部の研修に参加し、いろいろ知識を得ているが、職員にまで、詳しく周知は出来ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には説明を行い。疑問点があればいつでも話を聞き、説明する体制を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているがほぼ利用はなし。ご家族来訪時に、何かあれば話を聞くことにしている。	利用者や家族と意思の疎通を図り、意見や要望が出されたときは改善に向けた取り組みが行われています。家族には、写真掲載の「すてきだね通信」と個別の通信を送付し、さらに来訪時や電話、ラインを活用し、詳細を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞くように努めている。職員からの要望や意見は柔軟に取り入れている。	職員は、運営上の意見や提案に加え、個人的な要望等を業務や個人面談等で役職者に伝えていきます。法人職員である事務長は、施設長と情報を共有するなど、スムーズな運営体制を築いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者より、職員個々の勤務状況の報告をうけている。なかなか給与に反映することは難しいが、その分、希望の休日や賞与に反映できるように努めている。資格取得に関する費用の一部助成も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めているが、研修機会が少ない。職員が不足しており、なかなか参加をしてもらえないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は包括の職員、他の圏域の職員と協同し勉強会を企画委員として参加し交流をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に本人や家族と面談を行い安心して生活しているだけな関係作りを努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも困っている事や不安に思っていることを聞き、良い関係を作れるように努めている。要望にも出来る事、出来ない事をしっかりと説明し理解を求めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要な支援は何かを判断し、出来る事はしてもらいながら、必要な支援を考え提供し、なるべく早く落ち着いた生活が送れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をしていただき、助け合いながら暮らしている。 茶碗拭きや洗濯物を干す、畳む作業を行っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も比較的良好で、面会時等には水分摂取の介助も行ってもらっている。 関係が一方通行の家族もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が来られる程度で、友達や知り合いが尋ねてくることはほとんどない。	家族の面会時は、自由に場所を提供しています。高齢化や介護度により、馴染みの人や場所への要望がなく、家族や職員が話し相手になっています。コロナ禍以前は、家族の支援で通院や美容室、墓参り、一時帰宅等が実現しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の状況を把握し努めているが、入居者同士のかかわりはほとんどない。入居者と職員のかかわりの方が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつでも対応している。 健在の入居者さんの場合は、様子をうかがいに行ったり現在の状況を聞いたりしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞ける方は、日常の会話から本人の希望を聞くようにしている。 意思表示が出来ない方が増え把握が出来ない現状がある。	一人ひとりの関わりから要望の把握に努めていますが、困難な場合はふとしたサインから思いを察知するよう努めています。家族からの情報や連絡ノート、個別の記録等も判断材料とし、利用者の意向に添えるケアに取り組んでいます。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴の情報を得て把握に努めている。入居後も、経過を見ながら出来る事、出来ない事の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を観察することで把握に努めている。また、連絡ノートや記録を見ることで情報を共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望は聞いている。日常的にケアの仕方や疑問があれば、スタッフ間で検討し、ケアに反映しているが、もっとスタッフ間で意見を出しあえるともっとより良いものが出来ると思っている。	介護計画作成時は、関わりから利用者の願いと家族の思いを確認しています。評価や課題分析、職員の意見等を踏まえ、一人ひとりに応じた支援目標を掲げ、さり気ない言動をも記した介護記録に目標の実践をチェックしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有してケアに活かしている。記録が十分にできる職員とまだ足りない職員がいるのは事実であり、まだまだ改善が必要であると考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の山下整形でのリハビリの活用。調剤薬局や、福祉用具業者との連携等、必要に応じて柔軟な支援体制に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加協力。 週一回セブンイレブンに買い物。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携が出来ており、特にかかりつけ医がない方は、転院をしてもらい安心して生活を送ってもらっている。継続してかかりつけの病院にかかりたい場合は、受診の協力をしてもらう場合と、どうしても無理な場合は相談にのっている。	受診先は利用者や家族の希望を受け入れていません。協力医院への外来受診や往診体制を整え、受診時には健康状態を書面で伝えています。週1回、24時間連絡体制の訪問看護師による健康管理もあり、状況に応じて適切な助言が得られています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携は取れている。日頃から些細な事も報告し情報の共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、適宜様子を見に行き、早期に退院が出来るように向けて支援してる。医療機関にも、なるべく早期に退院が出来るようをお願いをするようにしている。今年は新型コロナの影響で面会が出来なかった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期には、家族の思いを最優先に考え、看取りの希望があれば、医師、看護師と相談し、看取りの支援を行う体制は出来ている。	重篤時には主治医から家族に説明があり、意思確認を経て看取り体制の開始としています。経験の少ない職員は、施設長から正しい理解への助言を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講。今年が出来ていない。不安があれば管理者への報告体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。地域への連絡体制の依頼もしている。日中帯、夜勤帯の想定で訓練を実施している。災害時の訓練は今後必要と考えている。	年2回、日中・夜間想定火災避難訓練は、新人職員を優先に実施しています。連絡網には複数の地域住民の登録、3カ所ある避難経路の確認、災害時用品の用意、消防署員の提案等を踏まえ、防災への意識統一を図っています。	ハザードマップ上では危険地帯ではありませんが、近年想定外の災害が起きていますので、あらゆる災害や排泄時等のケア場面での対処法の確認が望まれます。マニュアルやシミュレーション、実践的訓練の取り組みに期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より観察をしてその人に合った言葉かけや対応をしている。なれなれしくなる場合もあるが、関係性上そのほうがコミュニケーションが取れる場合もある。	自立排泄の利用者にはドアの前で見守り、入浴時は同性介助に配慮しています。申し送り時は部屋番号を使用し、個人記録は適正に管理しています。言葉遣いは尊厳を根底に、利用者それぞれに対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞けるように声掛けをしている。希望を言える方はなるべくかなえれあげられるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。人員配置、不足でこちらの都合に合わせてもらっているところもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や身だしなみには気を配っている。個人で化粧水や乳液を使える方は自分で行ってもらい、出来ない部分は支援してる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食器や箸、スプーン等工夫して自力で摂取してもらえるように促している。準備は出来ないが、茶碗拭き等片付けをしてもらっている。米研ぎや布巾の消毒も行ってくれている。	献立と食材は、業者から届いています。状況によってはアレンジしたり、菜園のトマトやナス、キュウリ、大根などを活用し、利用者と食卓を共にしています。識別しやすい色付きの器や飲みやすい取っ手付きのお碗を用意するなど、自立支援に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は業者を利用している。提供の方法は、個人個人に合わせて行っている。食べやすい食器を考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、歯磨きを行っている。介助が必要な方には、必要なケアを行っている。就寝前には、義歯を外してもらい洗浄剤を使用して清潔保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合った支援をしている。歩行や移乗が困難な方でも、トイレでの排泄を促すような支援をしている。	自立排泄の利用者以外でも2人介助も視野に入れ、トイレでの排泄を基本としています。衛生用品の下着着用は、ぎりぎりまで対応を試みてから家族に相談しています。夜間のみポータブルトイレを使用する方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排便があるように乳製品、オリゴ糖、ブルーベリー等を利用している。Drと相談し、下剤の使用もしているが、なるべく負担が無いように一人ひとりにあわせて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	決まった時間の中での入浴となっている。また、身体機能の低下や認知症の進行に伴い、浴槽に入る事が出来ない方も増えており、その方に合った支援の方法で対応している。希望により、曜日を決定している方もいる。	入浴は週2回を基本としていますが、拒否がある時は家族に相談して週1回になることもあります。利用者は職員の支援で湯船に入っていますが、困難なときは全身をタオルで包み、足湯をしながらのシャワー浴や清拭を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりに合わせた休息の時間を作り支援している。夜間も自室でゆっくり休んでいただけるように室温等にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬一覧がいつでも確認できるし、薬剤師にも協力をしてもらい、一包化や名前、日付の印字等わかりやすくしていただいている。服薬時は複数で確認し服薬介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの出来る事を探し行ってもらっている。食事の後片付けや、洗濯物干し等行ってもらっている。その他、カルタや風船バレー等でも楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に左右される部分が多いが、少しの時間でも外の空気を吸う時間を作っていた。今年は新型コロナウイルスの影響で外出の機会は無くなっている。身体的に出かけられない方も増えてきている。	コロナ禍以前は、コンビニでの買い物、隣接のデイサービスに知人を訪れたり、公園に花見見物、東川町での森林浴などで外気に触れていました。また、2週間毎の協力医院への受診も外出の機会と捉えています。家族との外出もありました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金も持つ事の大切さは理解しているが、現状管理が出来る方がいない為、使える方は、預かり必要に応じて、買い物に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は、電話を掛け家族とつなげる支援を行うが、現状、ほぼ電話を掛けたいという方はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度に気を付け支援している。刺激になるような物は使用していない。ライトも温かみのあるものを使用している。	陽射しが降り注ぐ居間には食堂とソファコーナーがあり、利用者は自分の居場所で寛いでいます。壁面には利用者の作品である習字や色紙での作品等が飾られています。玄関前には、ダンボールで作った神社とお賽銭箱を設置し、利用者は初詣に参拝しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり落ち着く場所で過ごして頂くようにしている。日頃より観察し、居場所作り工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自由に使ってもらっている。状況により、過ごしやすいように模様替え等の提案をさせていただき、介助する側も使いやすいようにさせてもらう場合もある。	居室には、収納庫とクローゼットが設置されています。それぞれに整理ダンスやテレビ、趣味の物などを持ち込んでいます。仏壇に3度のご飯を供えたり、花瓶に花を活けるなど、利用者が落ち着ける環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、安全に行動してもらっている。「できること」は見守りの中行動してもらっている。		